



【栃木県那珂川町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
(合同部活動の推進に関する実証事業)

自治体名	栃木県那珂川町
担当課名	学校教育課
電話番号	0287-92-1124

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	14,599人	部活動数	19部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	290人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定しない

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

(1) 那珂川町内中学校における生徒数の推移

本町には、公立中学校が2校あり、今後、馬頭中学校においては生徒数の減少傾向が見られ、小川中学校においては微増傾向が見られる。

ただ、本年度までの生徒数減少が顕著であるため、今後大幅な生徒数増加は見込めないところである。

(2) 令和5年度那珂川町内中学校における部活動別在籍生徒数の現状

表のとおり、馬頭中学校には9つの運動部及び2つの文化部、小川中学校には8つの運動部が設置されている。

一部の団体競技については、部員数不足により合同チームを編成して大会に臨んでいる現状にある。

(3) 那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会の設置

これまでの国や県の動向を踏まえるとともに本町の現状を受け、今年度、学識有識者等を委員とした「那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会」を設置した。

(4) 合同部活動の推進に関する実証事業の実施

本町の現状及び今後の地域移行を見据え、今年度、合同部活動の推進に関する実証事業を実施した。

(1) 各中学校における今後の生徒数の推移

馬頭中	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1年	52	62	49	55	39
2年	71	56	62	49	55
3年	69	71	56	62	49
合計	192	189	167	166	143

小川中	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1年	30	41	35	29	47
2年	25	33	41	35	29
3年	43	25	33	41	35
合計	98	99	109	105	111

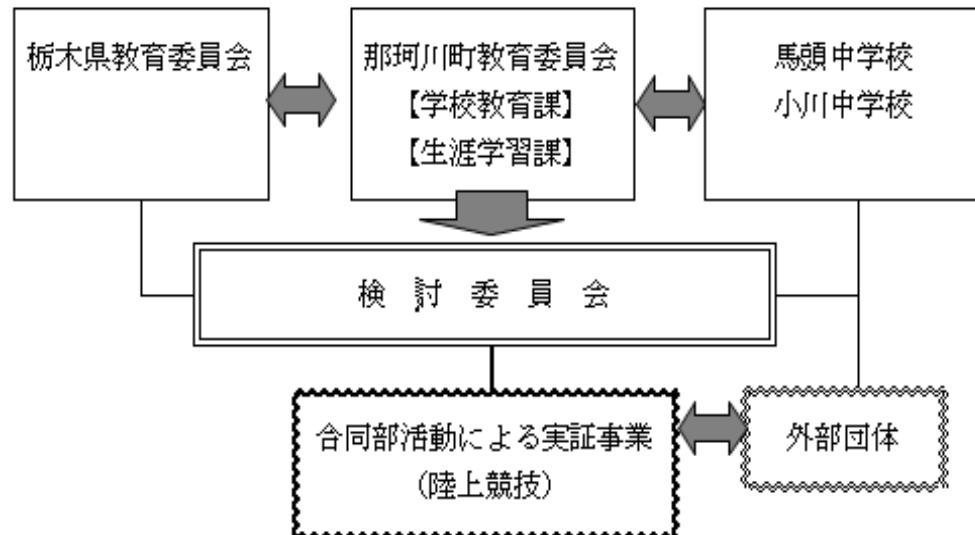
(2) 各中学校の部活動に在籍している生徒数（令和5年6月1日現在）

部活動名	馬頭中【1・2年生のみ人数】	小川中【1・2年生のみ人数】
野球部	10【4】	18【13】
サッカー部	29【22】	14【6】
ソフトテニス（男）	27【17】	15【10】
ソフトテニス（女）	26【18】	15【7】
卓球（男）	27【15】	16【9】
卓球（女）	8【8】	4【1】
バレーボール（女）	17【10】	13【7】
バスケット（女）	14【10】	/
吹奏楽部	9【7】	/
総合文化地域貢献部	25【12】	/
陸上競技部	6【6】	8【5】
合計人数	192【123】	95【53】

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼事業実施体制図（市区町村と関係団体における推進体制図）



年間の事業スケジュール

月日	実施内容
5月11日（木）	中学校の部活動に関する在り方検討準備委員会の開催
6月～	合同部活動（陸上競技部）の活動開始
7月25日（火）	第1回那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会
11月	中学校におけるこれからの休日の部活動に関するアンケートの実施
11月24日（金）	第2回那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会
2月13日（火）	第3回那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会

2. 実証内容と成果

合同部活動の運営実績

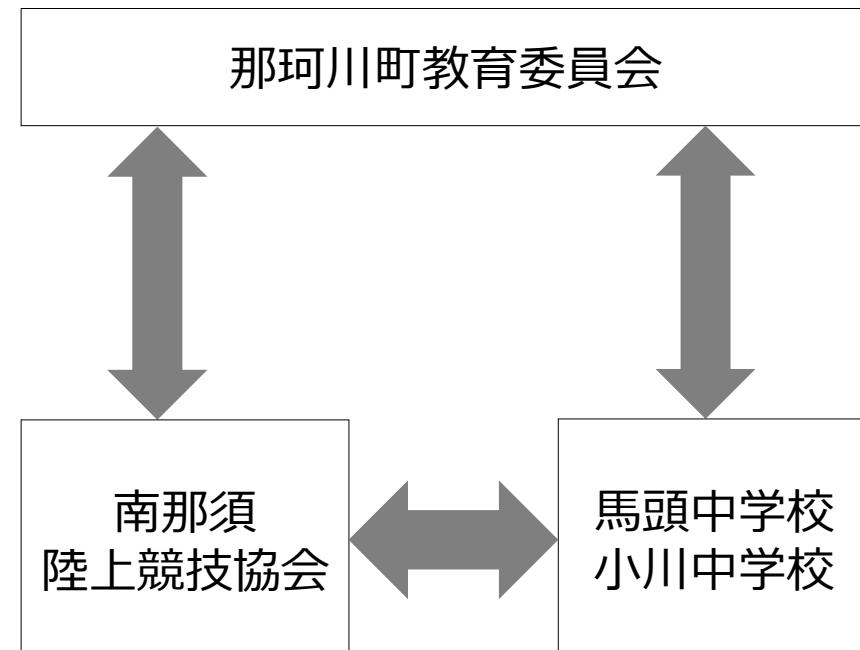
参加校数	2 校	実施した種目	陸上競技
合同部活動に取り組んだ部活動数	1 部活		

主な取組例

▼活動概要

参加校名	馬頭中学校、小川中学校
実施した種目	陸上競技
1か月あたりの平均的な活動回数	月 4 回程度（休日 4 回）
指導者の主な属性	南那須陸上競技協会に登録している指導者
活動場所	烏山高等学校金井キャンパスグランド
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費（年額）	1,000円/年
1人あたりの保険料	生徒 1 人あたり : 800円/年 指導者 1 人あたり : 800円/年 (スポーツ安全保険)

▼運営体制図（合同部活動を実施する際の運営体制）



▼参加校における役割分担

● 馬頭中学校・小川中学校

- ・トラブル発生時の自校の生徒・保護者への各種対応
- ・参加校間の定期的な連絡会等の開催・出席

2. 実証内容と成果

取組内容

取組項目

令和5年5月に中学校の部活動に関する在り方検討準備委員会を開催し、町内2中学校に陸上競技部を常設部として設置すること、休日における合同部活動として陸上競技部を指定し、南那須陸上競技協会と連携を図りながら活動を行っていくこととした。

そのため、毎週日曜日に合同部活動として、南那須陸上競技協会の指導者による指導の下、活動を行っている。

また、那珂川町内中学校の生徒にとって望ましい部活動の環境を構築する観点から、部活動の地域移行に向けた課題に総合的に取り組むため、学識経験者等を委員とした「那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会」を設置した。

取組の成果

合同部活動に参加している中学生への聞き取り調査では、合同部活動により学校の教員以外の指導者から専門的な指導が受けられたり、他校の優秀な選手と一緒に練習ができることでレベルアップに繋がったりするよさが挙げられた。一方で不安なこととして、平日と休日で指導方法が変わることなどが挙げられた。

また、検討委員会において、町内全ての小4～中2までの児童生徒及びその保護者に、中学校におけるこれからの休日の部活動に関するアンケートを実施した。【次ページのスライド参照】

特に、保護者アンケートでは、今後、少子化の影響で各学校での部活動運営が難しくなった場合、部活動の存続に向けた対応について最も多かったのが「町内2中学校が合同部活動として部活動を行う」と回答したのが全217名中108名（49.8%）、「あくまで各中学校で活動を行う」と回答したのが88名（40.6%）、「町外の中学校と連携して、合同部活動として活動を行う」と回答したのが21名（9.7%）だった。今年度は本事業を活用し、陸上競技部を合同部活動として実施しているが、今後、少子化が進んだ場合には、合同部活動に対する必要性は益々高まることが想定される。

さらに、検討委員会の協議において、各中学校の部活動顧問からは、休日の部活動が地域移行され合同部活動が行われることにより、教員の業務負担の軽減が図られること、未来を担う子どもたちを地域で育てられることなどの意見が出された。

今後の課題と対応方針

本事業の実施により、合同部活動の必要性を再認識することができた。本町としては、南那須陸上競技協会と連携を続け、休日における合同部活動を今後も推進していく必要があると考える。そのため、持続可能な取組としていくよう予算確保や地域移行に係る取組の周知等に向けて取り組んでいきたい。

また、陸上競技部以外の部活動についても、まずは休日の活動をどのように地域移行していくべきか更なる検討が必要と考える。そのため、次年度に向けて地域移行に係る業務を担う職員の確保や部活動指導員等の指導者の確保に向けた予算措置に向けて準備を進めていきたい。

【参考】中学校におけるこれからの休日の部活動に関するアンケート結果

中学校におけるこれからの休日の部活動に関するアンケート結果

1 アンケート実施概要

(1) 実施対象

小学4年生～中学2年生の児童生徒及び保護者

(2) 実施時期

令和5年10月12日(木)～令和5年10月31日(火)

(3) 実施方法

Google フォームにて、児童生徒は学校実施、保護者は各自実施

2 小学4年生～小学6年生児童アンケート結果【回答数：291名】

(1) 休日、スポーツ少年団や習い事（学習塾はのぞく）等に参加していますか。

- ・参加している：116名（39.9%）
- ・参加していない：175名（60.1%）

(2) (1)で「参加している」と答えた場合、参加している競技等は何ですか。

- | | | |
|--------------|------------|-----------|
| ・サッカー：38名 | ・水泳：37名 | ・野球：19名 |
| ・陸上競技：14名 | ・ピアノ：9名 | ・習字：7名 |
| ・バスケットボール：7名 | ・バレーボール：6名 | ・空手：5名 |
| ・剣道：3名 | ・ゴルフ：2名 | ・テニス：1名 |
| ・レスリング：1名 | ・フラダンス：1名 | ・バイオリン：1名 |
| ・レクリエーション：1名 | | |

(3) 今後、休日の中学校の部活動を、学校の先生ではなく地域に住んでいる方が指導者となって教えることをどう思いますか。

- ・賛成（どちらかといえば賛成含む）：154名（52.9%）
- ・反対（どちらかといえば反対含む）：68名（23.3%）
- ・分からぬ：69名（23.7%）

(4) 休日の中学校の部活動を学校の先生ではなく、地域に住んでいる方が指導者となって教えることには、どんなよさがあると思いますか。

- ・地域の人との交流がふえること：163名（56.0%）
- ・先生が、先生本来の仕事に使う時間がふえ、先生の負担が減ること：108名（37.1%）
- ・専門的な指導が受けられること：81名（27.8%）
- ・同じ指導者から、長い期間、指導が受けられること：48名（16.5%）
- ・よいと思うことはない：31名（10.7%）

(5) 休日の中学校の部活動を、学校の先生ではなく地域に住んでいる方が指導者となって教えることには、どんな不安があると思いますか。

- ・平日と休日で指導方法が変わること：106名（36.4%）
- ・家の人の負担がふえる場合があること：82名（28.2%）
- ・地域の指導者と、よい人間関係を作ること：76名（26.1%）
- ・お金がかかるようになり、負担がふえる場合があること：70名（24.1%）
- ・不安なことはない：69名（23.7%）

中学校におけるこれからの休日の部活動に関するアンケート結果

3 中学1年生～中学2年生徒アンケート結果【回答数：168名】

(1) 休日、スポーツ少年団や習い事（学習塾はのぞく）等に参加していますか。

- ・参加している：60名（35.7%）
- ・参加していない：108名（64.3%）

(2) (1)で「参加している」と答えた場合、参加している競技等は何ですか。

- | | | |
|--------------|------------|----------|
| ・卓球：10名 | ・テニス：9名 | ・野球：8名 |
| ・水泳：8名 | ・サッカー：7名 | ・陸上競技：6名 |
| ・バスケットボール：6名 | ・バレーボール：6名 | ・ピアノ：2名 |
| ・空手：2名 | ・剣道：1名 | ・習字：1名 |

(3) 今後、休日の中学校の部活動を先生ではなく、地域の指導者が教えることをどう思いますか。

- ・賛成（どちらかといえば賛成含む）：82名（48.8%）
- ・反対（どちらかといえば反対含む）：38名（22.6%）
- ・分からぬ：48名（28.6%）

(4) 休日の中学校の部活動を先生ではなく、地域の指導者が教えることに対する期待について、あてはまるものを選んでください。

- ・先生以外の指導者から専門的な指導が受けられること：88名（52.4%）
- ・地域の人との交流が増えること：69名（41.1%）
- ・先生の負担が減り、本来の業務に専念できること：45名（26.8%）
- ・期待することはない：40名（23.8%）
- ・地域の指導者は定期異動がないため、一貫した指導が受けられること：31名（18.5%）

(5) 休日の中学校の部活動を先生ではなく、地域の指導者が教えることに対する不安について、あてはまるものを選んでください。

- ・平日と休日で指導方法が変わること：66名（39.3%）
- ・不安なことはない：38名（22.6%）
- ・地域の指導者と良好な人間関係を作ること：31名（18.5%）
- ・保護者の負担が増える場合があること：15名（8.9%）
- ・金銭面での負担が増える場合があること：12名（7.1%）

中学校におけるこれからの休日の部活動に関するアンケート結果

4 小学4年生～中学2年生保護者アンケート結果【回答数：217名】

(1) 現在、町内2中学校では、それぞれの学校で部活動を行っています。

今後、少子化の影響で各学校での部活動運営が厳しくなった場合、部活動の存続に向けた対応についてどう思いますか。

- ・町内2中学校が、合同部活動として活動を行う：108名（49.8%）
- ・あくまで各中学校で活動を行う：88名（40.6%）
- ・町外の中学校と連携し、合同部活動として活動を行う：21名（9.7%）

(2) 中学校の部活動を指導する指導者についてどう思いますか。

- ・教員がいい：100名（46.1%）
- ・外部から招いた専門の指導者（プロ等）がいい：69名（31.8%）
- ・地域の指導者がいい：48名（22.1%）

(3) 「中学校部活動の地域移行」について内容を知っていますか

- ・知っている（よく知っている、少し知っている含む）：75名（34.6%）
- ・知らない（あまり知らない、全く知らない含む）：142名（65.4%）

(4) 今後、休日の中学校の部活動を教員ではなく、地域の指導者が教えることをどう思いますか。

- ・賛成（どちらかといえば賛成含む）：144名（66.4%）
- ・反対（どちらかといえば反対含む）：29名（13.3%）
- ・分からぬ：44名（20.3%）

(5) 休日の中学校の部活動を教員ではなく、地域の指導者が教えることに対する期待について、あてはまるものを選んでください。

- ・教員以外の指導者から専門的な指導が受けられること：125名（57.6%）
- ・教員の負担が減り、本来の業務に専念できること：101名（46.5%）
- ・地域の指導者は定期異動がないため、一貫した指導が受けられること：63名（29.0%）
- ・地域の人との交流が増えること：61名（28.1%）
- ・期待することはない：27名（12.4%）

(6) 休日の中学校の部活動を教員ではなく、地域の指導者が教えることに対する不安について、あてはまるものを選んでください。

- ・保護者の負担が増える場合があること：120名（55.3%）
- ・平日と休日で指導方法が変わること：107名（49.3%）
- ・金銭面での負担が増える場合があること：75名（34.6%）
- ・地域の指導者と良好な人間関係を作ること：68名（31.3%）
- ・不安なことはない：14名（6.5%）

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【準備体操】



【ハードルドリル】



【ラダートレーニング】



【ミニハードルトレーニング】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ*

中学校部活動の地域移行に向けた今後のスケジュール

令和6年度

- 町教育委員会に部活コーディネーターを配置
- 各中学校に部活動指導員を配置
- 那珂川町における中学校の部活動に関する在り方検討委員会を開催
- 各中学校部活動顧問との意見交換会を開催
- 町内スポーツ・文化関係団体との意見交換会を開催
- 中学校関係者と町内関係団体との意見交換会を開催
- 地域移行に関する情報を保護者及び地域へ周知

令和7年度

- 【目標】
各中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動に移行する